



今回から2回にわたって、奥熱海療院における園芸療法の実践の場、園芸療法コーナーに隠された癒しの環境づくりの仕掛けや工夫についてお話をさせていただきます。読者の皆様のお庭や各地の中小の瑞泉郷作りの際、癒しの角度からのアプローチとして参考にしていただけると幸いです。



## 園芸療法の実践

4

### 園

園芸療法コーナーは療院の東に位置し、正面玄関よりわずか100mの場所にあります。入口の反対側には山野草園やもみじ山、周囲には雑木林が広がり、野鳥の声がこだましています。そんな瑞泉郷の豊かな自然を身近に感じられる約50坪のこぢんまりとした庭が園芸療法コーナーです。

人間は自らが身を置く環境により、

## 庭園が作り出す癒し

心理的・身体的変化が起こることから、来院者はじめボランティア、スタッフに対し癒しの空間の提供を行なう目的で園芸療法の実施時間以外は一般に開放されています。また、散策道に面しているため気軽に立ち寄ることができるとともに、目線よりも高いコニファアの生垣で囲まれているため、プライバシーなスペースとして独立した空間となっています(写真)。適度に囲まれた空間に身を置くことにより、心が落ち着く

感覚は皆さんにも容易に想像していただけるのではないのでしょうか。入口からメインスペースにいたるアプローチ部分はゆるやかなカーブの舗装道になっているため、メインスペースが「見えそうで見えない」状態が「先を見てみたい」という気持ちにさせ、人の足をすすめます。また、利用者が足を



コニファアの生垣に囲まれた園芸療法コーナー

進めるごとにコーナー内には様々な種類の花や植物が少しずつ植えられているため、楽しく花を観察しながら、気分がないうちに長い時間、身を置いていたけるような仕掛けとなっています。

園芸療法では園芸療法士という介入者の手助けを得ながら、最終的には対象者と自然の繋がりを強くすることが癒しのステップの重要なポイントとなるため、対象者の自主性を重んじます。そのためにも様々な心身の状態の方が、自

つが、舗装です。まず、療院から園芸療法コーナーまでの散策道やコーナー内の舗装はほとんど高低差がなく、車椅子や歩行器を使う方、また足腰の不自由な方々が使いやすい設計になっています。またコーナー内の舗装面は真砂土を主原料とした舗装材を使っているため、透水性があり、雨の後や水撒きの後で舗装面が濡れても滑りにくくなっています。



やまや ゆりこ「奥熱海療院 園芸療法士(アメリカ園芸療法協会認定)」

問い合わせ先 奥熱海療院 TEL 0558(79)1022